

トルコギキョウの産地づくり

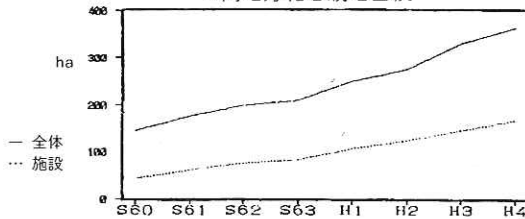
1. はじめに

日高地方の花きは、従来は寒小菊、花麦、花菜等の露地切り花と中山間地の千両、シキミ、サカキ等が主な産地品目であった。昭和60年頃から海岸段丘畑地帯の野菜産地で、宿根カスミソウ、スイートピー、スターチス、スプレーカーネーション等の洋花施設栽培が始まり以来急激に伸び続け、県下の花き粗生産額の48%を占める大産地となってきた。

今後は、施設花きを中心に拡大はもとより、重装備型施設への移行やバラ、トルコギキョウ等、高級花の拡大を推進する。

なかでもトルコギキョウに重点を置き、産地化に取り組んでいきたい。

日高地方花き栽培面積



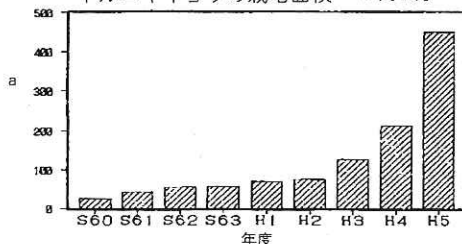
2. 動機

日高地方のトルコギキョウの栽培は、昭和50年代の後半から始まった。しかし、面積も少なくはそばそと栽培されていたが、近年急速に関心が高く規模拡大がされつつある。

暖地の産地は、静岡、高知、熊本、千葉が主流であるが県当りの栽培面積が20ha以下で小規模産地である。

- ①花業界関係者が注目している。消費者ニーズにあった品目である。
- ②価格が安定している。
- ③栽培適地が多い。
- ④長期継続出荷が可能。
- ⑤競合産地の規模が小さい。
- ⑥普及計画に位置づけている。

トルコギキョウの栽培面積 日高地方



3. 取り組みの内容

①関係機関との連携

・暖地園芸センター、専門技術員、産業課、県農、営農指導員、普及所が一体となり取り組んでいる。

②栽培技術の高位平準化

・計画的に研修会を開催し栽培技術の向上を図っている。

③現地試験の実施

・野菜、花きモデル実証展示は設置事業

促成栽培による品種特性と市場調査

・21世紀型企業的経営育成事業実証展示圃

……経営改善

・専技活動高度化特別事業

技術の確立と経済効果について

・超促成栽培による二度切り安定生産を図る。

④現地検討会

・目揃い会、出荷規格統一を図る。栽培状況の問題点等の把握

4. 今後の展開

日高地方の重点品目としてトルコギキョウを積極的に推進し、産地づくりを行う。

10ha……………1千万本

①栽培面積の規模拡大

・作付計画を行い、長期継続出荷の推進

②栽培技術の向上

③優良種苗の確保

④広域的な研究会の結成とリーダーの育成

⑤郡一出荷体制の確立

なお、日高地方の花卉の取り組みは組織の充実強化を図るとともに生産の安定化に努め、足腰の強い長期継続出荷、周年供給出来る花卉産地を目指す。

振興推進方策

①重装備型施設化(自動制御装置等)の推進

②生産基盤整備への誘導

③優良種苗の確保と安定供給体制の強化

④組織の充実

⑤高品質多収生産技術の開発

⑥栽培技術の高位平準化

⑦新規開発導入品目の探索

(日高普及所)